

可であった。



#### (4)成果の公表(活動発表・論文執筆等)

今年度は体力測定が実施できなかったため、次年度は実施可能な種目を選択し、継続した教室の成果として報告予定である。

## 9. 地域住民参加型キャリア教育の実践

人間健康学部スポーツ健康学科 山崎 保寿

### (1)活動の計画

#### 1)課題意識

人口減少社会を迎えた今日、学校と地域社会の連携が非常に重要になっている。新学習指導要領で「社会に開かれた教育課程」の理念が打ち出されたことを踏まえ、地域住民主体のキャリア教育の実践モデルを開発実践する。地域と連携した「社会に開かれた教育課程」の理念の実現を図る有意義な方策を地域連携型キャリア教育として具体的に示す。

#### 2)進め方

松本市の中学校(市立菅野中学校)において、地域住民参加型のキャリア教育を実践する。申請者が開発してきたキャリア教育プログラムを実施校の校長および学年主任と十分な協議を行ったうえで実践する。実践後は、地域住民主体のキャリア教育の実践モデルをガイドブックの形にまとめ、教育委員会・

学校等に広く配布する。

### (2)活動内容

キャリア教育の活動では、保護者が生徒のために書いた文集『私たちの未来は明るい』(キャリア学習・職場体験学習ファイル、写真①)を生徒が予め読んでおき、グループで読後感を話し合い、全体で発表



写真①

した。コロナ禍のため、生徒はフェイスシールドを着用してグループ活動を実施した。(松本市立S中学校のグループ活動、2020年6月22日、写真②)

例年実施していた職場体験活動では、コロナ禍のため、各事業所が松本市立S中学校へ出向いて生徒に業務内容を説明した。(職場体験学習への協力、2020年10月27日、写真③④)



写真②



写真③



写真④

### (3)活動の成果

本研究は、松本市立S中学校の協力により、2018・2019年度に地域住民参加型キャリア教育の実践モデルを開発・実践し、中学生の職業観の具体化、将来の職業的目的の明確化、生徒が希望する職業に対する保護者の理解、地域連携の促進などにおいて、成果が上がることを確認してきた。2020年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、学校の教育活動が制約されたため実践内容の変更や制限を余儀なくされた。2020年6月22日に実施されたキャリア教育の活動では、生徒がフェイスシールドを着用してグループ活動を行い、生徒の将来に関する保護者の考えに対して感想を述べ合った。

本研究で開発した地域住民参加型キャリア教育の実践方法を解説したリーフレットを作成し、長野県内教育委員会等に配布するとともに、教育研修等で活用し参加教員の高い評価を得た。本実践の成果とキャリア教育に関する理論的考察等をまとめ、松本大学出版会から下記著書を刊行し、教育委員会、大学関係者、S中学校校長・教員に周知した。成果の周知、教員研修での活用の点では、十分な成果を上げることができた。

### (4)共同活動者

共同活動者：木下善子(松本市立菅野中学校校長)  
役割：実践校の校長として、本プログラムを実施する。

### (5)成果の公表(活動発表・論文執筆等)

#### 【著書】

山崎保寿『キャリア教育が創出する新たな教育環境—地域連携で生み出す主体性と価値—』松本大学出版会、2020年4月、280pp、単著

#### 【報告書】

山崎保寿『2018年度「将来ビジョンマップ」2019年度「未来予想図」づくり 地域連携型キャリア教育実施報告書(実施協力校：松本市立菅野中学校)』(2019年度松本大学地域連携活動経費助成報告書)、2020年4月、単著、66pp.

#### 【論文】

山崎保寿「中学校における地域連携型キャリア教育の実践とその成果—2018年度の実践に関する補足的考察—」教育課程研究会『教育課程研究論集』第8号、2020年10月、pp.59-68